

インドの音階でLet's創作！～鑑賞と表現(創作)との関連を図って～

芸術科(音楽) 普通科・第1学年

石川県立羽咋高等学校

1 事例の概要

本校で音楽を選択する生徒たちは、歌唱や器楽など作品を演奏するという点において活動的である。しかし、創作や鑑賞の分野においては「あまり好きではない。」「いつも良い評価をもらえない。」と思っていたり、「創作」という言葉を出すと「したくない」という表情を浮かべたりと、苦手意識を持ってきたことがうかがえる。そこで、「生徒たちにとって分かりやすく、楽しみながら楽曲を聴いたり、主体的に創作活動ができる」ことを目標に、授業を作ることにした。

9月に行った鑑賞では、親しみやすい西洋古典音楽作品を取り上げた。音楽の構成要素である「旋律」に着目させることで能動的に鑑賞し、また感じ取ったことの原因を音楽の中から気付かせ、言葉で表現することで楽曲を深く味わって聴くことができた。今回は、インド古典音楽を取り上げ、まず鑑賞の活動を通して音楽を特徴付けている要素を聴き取って感じ取らせ、それを生かして創作活動を行い、表現と鑑賞の関連を十分に図ることとした。民族音楽に多く見られる「ドローン」という持続低音に着目し、その効果を感じ取らせること、またそれを活用して楽しみながら、創作表現することで、他国の音楽文化を尊重する態度を養いたいというのが今回の実践のねらいである。

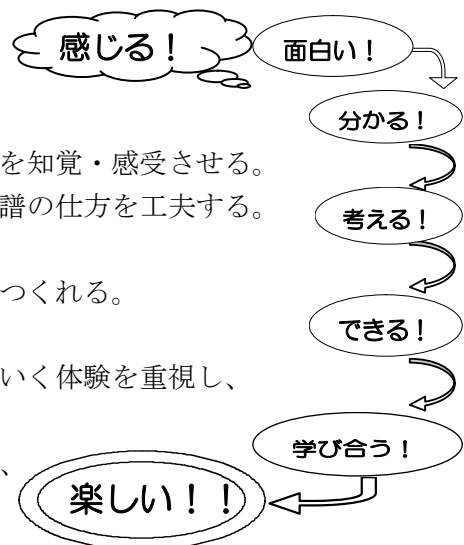
2 実践内容

(1) 題材の目標

- ・インド古典音楽固有の音階や音色、ドローンに関心をもって意欲的に鑑賞し、創作表現する。
- ・インド古典音楽固有の音階や音色、ドローンなどの特徴を感じ取って聴き、それを生かして創作表現を工夫する。
- ・インド古典音楽のイメージをもって、インド古典音楽固有の音階を生かして創作表現をする技能を身に付ける。
- ・インド古典音楽固有の旋律やドローンなどの特徴を理解して楽曲を聴き取り、そのよさや美しさを味わう。

(2) 指導上の工夫点(視点)

- ① インドの代表的民俗楽器シタールやドローンマシーンを活用し、インドの古典音楽に興味・関心を持たせる。
- ② 実際にシタールを弾き、聴き比べをしてドローンの効果を知覚・感受させる。
- ③ 誰でも簡単に創作表現ができるよう五線譜を使わない記譜の仕方を工夫する。
 - ア. 5つの音に限定する。
 - イ. ラシ^bド[#]レミに○をつけてつなげるだけで旋律がつくれる。
 - ウ. ●と○と選ぶだけでリズムがつくれる。
- ④ グループ活動を取り入れ、みんなで1つの音楽を作っていく体験を重視し、共同する喜びを感じたりする指導を重視する。
- ⑤ 創作発表会を通して、つくった音楽を互いに分かち合い、思いや意図を伝え合うようにする。



B-1 ワークシート①

B-2 ワークシート②

B-3 ワークシート③

3 指導の実際

学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	評価規準
インド古典音楽固有の5つの音を使った創作	○創作方法を知る ラシ♭ド#レミは インドの音階の始めの5音であることを知る。 ○各自旋律を4小節作る。	○どの音を選んでも旋律になるので、気楽に音を選んで作ってみよう働きかける。 ○簡単に創作できるようにワークシートには5つの音のみを記載する。	インド古典音楽の音階の特徴に関心をもち、創作する喜びを味わおうとしている。 【関心・意欲・態度】

C-1 指導案

C-2 授業記録シート

C-3 創作発表の録音

4 成果と課題

(1) 成果

- ① 表現（創作）と鑑賞の関連を図った題材構成について
鑑賞では、シタールとタンブーラ・マシーンを用いることで、「ドローンがある時の方が旋律が引き立って、曲がまとまって聴こえた」等、ドローンの効果を感じ取っていた。
創作表現では、「5つの音を選んだだけなのにインドっぽくなって面白かった」という感想が多数あり、音楽をつくる楽しさを体験させることができた。生徒たちは、鑑賞で感じ取ったドローンや旋律を活用して音を考えながら出したりつなげたりして創作することができた。
- ② グループ活動でのかかわり合いについて
各自でつくった旋律をペアでつなげて1つの旋律をつくり、次に8～10人のグループで、旋律とそれにふさわしいドローンの創作表現を工夫させた。グループ活動では、3つのパート（旋律・リズム・ドローン）で合わせることが難しく苦勞しているグループも見られたが、活動を通して、全員が同じ拍子感をもつことに気づいたり、速さやパートのバランスを考えたりして、1つの音楽を作っていく体験の中で、共同する喜びを感じることができた。
- ③ 五線譜を使わない記譜の仕方について
旋律の創作は、早い生徒は30秒、苦手意識のある生徒についても「難しく考えずに○を付けてごらん」と声を掛けると「簡単に拍子抜けした」と言いながら楽しんでつくることができた。リズム創作でも、●か○を書きこむだけなので、無作為に作ってみて「意外とかっこよくなった！」と喜ぶ生徒もいたり、全員が自分のやり方で作ることができた。

(2) 課題

- ① 年間指導計画について
創作したものを音にする時にリコーダーを使ったが、それまでの授業でリコーダーを扱っておらず運指に慣れるのに時間がかかってしまった。歌唱・器楽・創作・鑑賞の4つの分野を年間計画の中にそれぞれの関連を図りながらバランス良くどのように組み込むか考えて年間指導計画を作成していく必要がある。
- ② 世界の様々な音楽文化の尊重について
世界の諸民族の音楽は私自身が不慣れであることから、適切な教材用音源を見つけることがとても難しかった。生徒が民族音楽の特徴を感じ取りやすい音源を探すことと、生徒が取り組みやすい教材（学習プリント）作りといった教材研究がとても重要である。
今回の授業を通して、「世界には色々な音楽があるんだなあと思った。」「色々衝撃的だったけど、すごいなあと思った。」等、ただ異質なものというだけでなく、様々な国の音楽を尊重するような感想が見られた。今後さらに我が国の文化を理解し愛着を持たせるために、我が国の伝統的な歌唱や和楽器についても取り組んでいきたい。